

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成24年1月31日
【四半期会計期間】	第17期第3四半期（自平成23年10月1日至平成23年12月31日）
【会社名】	ゲンダイエージェンシー株式会社
【英訳名】	GENDAI AGENCY INC.
【代表者の役職氏名】	代表取締役 最高経営責任者 山本 正卓
【本店の所在の場所】	東京都八王子市東町9番8号 （同所は登記上の本店所在地で、実際の本社業務は「最寄りの連絡場所」 で行っております。）
【電話番号】	該当事項はありません。
【事務連絡者氏名】	該当事項はありません。
【最寄りの連絡場所】	東京都新宿区西新宿三丁目20番2号
【電話番号】	03（5308）9888（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役 最高財務責任者 高 秀一
【縦覧に供する場所】	株式会社大阪証券取引所 （大阪市中央区北浜一丁目8番16号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第16期 第3四半期 連結累計期間	第17期 第3四半期 連結累計期間	第16期
会計期間	自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日	自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日	自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日
売上高(百万円)	15,229	12,510	19,135
経常利益(百万円)	1,541	1,191	1,683
四半期(当期)純利益(百万円)	840	672	864
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	809	593	817
純資産額(百万円)	4,888	4,968	4,896
総資産額(百万円)	8,484	8,103	7,917
1株当たり四半期(当期)純利益 金額(円)	8,976.10	7,232.77	9,247.41
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額(円)	-	-	-
自己資本比率(%)	53.3	61.1	57.5

回次	第16期 第3四半期 連結会計期間	第17期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自 平成22年10月1日 至 平成22年12月31日	自 平成23年10月1日 至 平成23年12月31日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	3,247.27	1,951.23

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
4. 第16期第3四半期連結累計期間の四半期包括利益の算定にあたり、「包括利益の表示に関する会計基準」(企業会計基準第25号 平成22年6月30日)を適用し、遡及処理しております。

2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定、または、締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中における将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間における日本経済は、世界的な景気減速懸念や円高の長期化等の要因により、先行き不透明な状況が続いております。

当社グループの主要顧客であるパチンコホール業界においては、個人消費低迷の影響を受け、依然として厳しい状況が続いております。また、震災後の当面の新台入替自粛や広告活動自粛、夏場の電力需要を鑑みた業界を挙げての輪番休業の取組み、さらには、本年8月以降、イベント広告宣伝規制が各都道府県単位で相次いで強化された影響により、これまでの広告戦略の刷新が求められる等、ホール企業の経営環境は大きく変化いたしました。

こうした環境下で、当社グループでは、主力の広告事業においては、震災による影響が少なかった中部以西のエリアにおいて人的資源を適切に配分し、営業活動を強化してまいりました。しかしながら、東日本のホール企業を中心とする広告自粛や、その後のイベント広告宣伝規制強化の影響も大きく、広告需要の消失を穴埋めするには至りませんでした。また、中古遊技機売買仲介事業においては、震災に伴う遊技機の新台販売延期や入替自粛等により、取引が停滞いたしました。

その結果、当第3四半期の売上高は12,510百万円（前年同期比 17.9%減）、営業利益は1,187百万円（同 22.5%減）、四半期純利益は672百万円（同 19.9%減）となりました。

なお、セグメント別の状況は以下のとおりであります。

(広告事業)

当第3四半期連結累計期間のパチンコホール広告市場は、震災発生後のパチンコホール業界における当面の広告活動自粛及びイベント広告宣伝規制強化の影響により、広告需要は減少いたしました。

こうした環境下において、当社は、震災の影響で業務停止を余儀なくされていた仙台営業所及び郡山営業所については、早期に営業所機能の回復をはかることにより、本年5月2日より業務を再開し、クライアントの復興を支援してまいりました。また、イベント広告宣伝規制強化の影響が大きいエリアを中心として広告戦略刷新の提案をスピーディーに展開する等、営業活動を強化し取引店舗数の増加に努めてまいりました。また、本年12月においては、例年に比べ新規出店告知案件を始めとした多数の特需案件を獲得する等、成果を挙げました。さらに、パチンコホールモバイル告知ツール「Mobavia」に加え、本年12月には、国内最大級の地域情報サイト「Yahoo!ロコ」のパチンコホール向けプランの専売代理店として積極的販売を開始する等、モバイル・ウェブサービスの拡充と拡販に努めてまいりました。

しかしながら、震災及びイベント広告宣伝規制強化に伴う広告需要の減少の影響を埋め合わせるまでには至らず、広告事業の売上高は12,079百万円（前年同期比 17.5%減）となりました。また、売上高減少に伴うマージン減少の影響により、セグメント利益は1,471百万円（同 28.7%減）となりました。

(中古遊技機売買仲介事業)

当第3四半期連結累計期間の中古遊技機流通市場は、震災の影響で遊技機の新台販売延期や遊技機の入替自粛が行われ、また、10月以降は、新台販売において回復の傾向があるものの、中古遊技機売買の回復は遅れていることから極めて低調に推移いたしました。

こうした環境下において連結子会社の(株)バリュー・クエスト（以下、VQ社）では、会員制の中古遊技機情報サービス「VQnet」の付加価値を高める施策を推進してまいりました。「VQnet」と連動した在庫管理システム「VQ在庫」の利便性を向上させるため、機能改善を行ってまいりました。また、厳しい環境下においても利益が確保できる収益構造の確立に向け、固定費を中心とする継続的なコスト削減を実施してまいりました。

しかしながら、中古遊技機売買の大幅な減少の影響を吸収しきれず、当第3四半期の成約台数は33千台（前年同期比 39.4%減）となり、中古遊技機売買仲介事業の売上高は301百万円（同 35.6%減）となったものの、固定費削減によりセグメント損失は 53百万円の損失（前年同期は 199百万円の損失）となりました。

(不動産事業)

当第3四半期連結累計期間においては、連結子会社の㈱ランドサポート(以下、LS社)において、既契約で継続中の2件の賃貸案件のほか、3件の賃貸物件仲介案件(19百万円)を成約いたしました。

その結果、不動産事業の売上高は128百万円(前年同期比7.9%増)、セグメント利益は54百万円(同1.5%増)となりました。

(2) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(3) 研究開発活動

該当事項はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	357,000
計	357,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成23年12月31日)	提出日現在発行(株) (平成24年1月31日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	93,000	93,000	大阪証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	当社は単元株制度は 採用していません。
計	93,000	93,000	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成23年10月1日～ 平成23年12月31日	-	93,000	-	751	-	1,063

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成23年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成23年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	-	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 93,000	93,000	-
単元未満株式	-	-	-
発行済株式総数	93,000	-	-
総株主の議決権	-	93,000	-

【自己株式等】

該当事項はありません。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成23年10月1日から平成23年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成23年4月1日から平成23年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,489	2,828
受取手形及び売掛金	1,702	2,735
有価証券	301	500
繰延税金資産	26	26
その他	184	129
貸倒引当金	7	4
流動資産合計	5,697	6,215
固定資産		
有形固定資産	935	869
無形固定資産	237	75
投資その他の資産	1,048	942
固定資産合計	2,220	1,887
資産合計	7,917	8,103
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	900	1,614
短期借入金	200	-
1年内返済予定の長期借入金	728	728
未払法人税等	202	30
中古遊技機売買仲介顧客預り金	221	162
その他	211	217
流動負債合計	2,464	2,753
固定負債		
長期借入金	513	342
資産除去債務	26	23
その他	16	15
固定負債合計	556	381
負債合計	3,021	3,134
純資産の部		
株主資本		
資本金	751	751
資本剰余金	1,063	1,063
利益剰余金	2,730	3,134
株主資本合計	4,545	4,948
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	4	3
その他の包括利益累計額合計	4	3
少数株主持分	346	16
純資産合計	4,896	4,968
負債純資産合計	7,917	8,103

(2) 【 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 】
 【 四半期連結損益計算書 】
 【 第 3 四半期連結累計期間 】

(単位 : 百万円)

	前第 3 四半期連結累計期間 (自 平成22年 4 月 1 日 至 平成22年12月31日)	当第 3 四半期連結累計期間 (自 平成23年 4 月 1 日 至 平成23年12月31日)
売上高	15,229	12,510
売上原価	11,136	9,177
売上総利益	4,093	3,332
販売費及び一般管理費	2,561	2,145
営業利益	1,532	1,187
営業外収益		
受取利息	17	10
受取配当金	0	2
助成金収入	9	2
その他	3	4
営業外収益合計	30	20
営業外費用		
支払利息	18	15
その他	1	0
営業外費用合計	20	15
経常利益	1,541	1,191
特別利益		
貸倒引当金戻入額	0	-
前期損益修正益	1	-
特別利益合計	1	-
特別損失		
減損損失	-	133
固定資産除却損	1	2
事務所移転費用	-	49
事業再編関連費用	10	-
その他	1	-
特別損失合計	13	185
税金等調整前四半期純利益	1,529	1,005
法人税、住民税及び事業税	544	407
法人税等調整額	182	3
法人税等合計	726	410
少数株主損益調整前四半期純利益	803	594
少数株主損失 ()	36	77
四半期純利益	840	672

【四半期連結包括利益計算書】
 【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	803	594
その他の包括利益		
其他有価証券評価差額金	6	0
その他の包括利益合計	6	0
四半期包括利益	809	593
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	846	671
少数株主に係る四半期包括利益	36	77

【連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更】

当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
連結の範囲の重要な変更 第1四半期連結会計期間より、株式会社ジュリアジャパンは重要性が増したため、連結の範囲に含めております。

【会計方針の変更等】

該当事項はありません。

【四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】

該当事項はありません。

【追加情報】

当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
第1四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)
資産の金額から直接控除している貸倒引当金の額 投資その他の資産 4百万円	資産の金額から直接控除している貸倒引当金の額 投資その他の資産 4百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
減価償却費 148百万円 のれんの償却額 106百万円	減価償却費 125百万円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自平成22年4月1日至平成22年12月31日)

1. 配当に関する事項

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成22年4月16日 取締役会	普通株式	282	2,800	平成22年3月31日	平成22年6月28日	利益剰余金
平成22年10月15日 取締役会	普通株式	251	2,700	平成22年9月30日	平成22年12月7日	利益剰余金

2. 株主資本の金額の著しい変動

当社は、平成22年4月16日開催の取締役会において、会社法第459条第1項第1号の規定による当社定款の規定に基づき、自己株式の取得に係る事項を決議し、普通株式7,730株を760百万円にて取得いたしました。また、平成22年6月30日付で、保有する自己株式17,730株全株を消却した結果、第3四半期連結累計期間において利益剰余金及び自己株式がそれぞれ1,743百万円減少いたしました。

当第3四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年12月31日)

配当に関する事項

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年4月15日 取締役会	普通株式	260	2,800	平成23年3月31日	平成23年6月27日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成22年4月1日至平成22年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	広告事業	中古遊技機 売買仲介事業	不動産事業	その他事業	計		
売上高							
(1) 外部顧客への売上高	14,641	468	119	-	15,229	-	15,229
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	-	-	-	-	-	-
計	14,641	468	119	-	15,229	-	15,229
セグメント利益又は 損失()	2,065	199	53	-	1,919	387	1,532

(注)1. セグメント利益又は損失()の調整額 387百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用 387百万円であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失()は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報

	広告事業	中古遊技機 売買仲介事業	不動産事業	その他事業	全社	合計
当期償却額(百万円)	-	106	-	-	-	106
当期末残高(百万円)	-	70	-	-	-	70

当第3四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	広告事業	中古遊技機 売買仲介事業	不動産事業	計		
売上高						
(1) 外部顧客への売上高	12,079	301	128	12,510	-	12,510
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	-	-	-	-	-
計	12,079	301	128	12,510	-	12,510
セグメント利益又は 損失()	1,471	53	54	1,472	285	1,187

(注)1. セグメント利益又は損失()の調整額 285百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用 285百万円であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失()は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報

「中古遊技機売買仲介事業」セグメントにおいて、営業損益が継続してマイナスとなっているため、当該セグメントに係る資産グループの帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失133百万円として特別損失に計上しました。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額	8,976円10銭	7,232円77銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(百万円)	840	672
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(百万円)	840	672
普通株式の期中平均株式数(株)	93,590	93,000

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成24年 1月23日

ゲンダイエージェンシー株式会社
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員 公認会計士 城戸 和弘 印
業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 山本 大 印
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているゲンダイエージェンシー株式会社の平成23年4月1日から平成24年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成23年10月1日から平成23年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成23年4月1日から平成23年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、ゲンダイエージェンシー株式会社及び連結子会社の平成23年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはX B R L データ自体は含まれていません。